

私の男女共同参画

特別インタビュー

遠賀町の各方面で活躍する3人に、それぞれの視点から「男女共同参画」について、お話を伺いました。

—はじめに、遠賀町ひと・人応援団「どし」について教えてください。どんな活動をされている団体ですか。

吉岡 平成10年に町から「男女共同参画を実現するための講座を開くから参加して」と打診されたのが始まりです。その主要メンバーで「どし」を設立して今に至り、年5、6回程度、講座や研修を企画しています。また、企画した講座を子育て中のお父さんお母さんにも聞いてもらいたい思いがあり、託児付きの講座を始めました。今では町の主催事業の託児を担っています。今年は「どし」設立20周年記念として、公開講座「男女共同参画の視点でみる熊本地震」を開催します。災害現場では両性の視点が大事で、避難所でなかなか女性の声が届かなかつたり、女性が気を使わずに自分の思いを伝えられず、心身とも

に疲れ切ってしまったりしたという声を聞き、学ぶ機会が必要だなと思い、企画しました。

—熊本地震の話が出ましたので、災害時の男女共同参画について、お聞きします。

白川 男性は力仕事などの面で、女性は介護や料理などの面で得意なことが多いですね。やっぱり男女で協力し合って困っている方の支援ができるといいなと思います。

今橋 昨年、商工会からボランティアとして自分を含め男3人で朝倉市に行きましたが、力仕事ばかりしていました。家の中までは「悪いかな」



自分の意見も言えるようになる、ならなきゃいけないんだと視点が変わっていききました

—災害時ではなく日常ではどうでしょう。家事や育児などをしながら、仕事や地域の活動をする事について教えてください。

白川 公民館長を引き受けるにあたって最初は心配していましたが、案外みんな助けてくれるものです。私はパソコンが苦手なんですが、そこはパソコンが得意な若手役員が作業をしてくれまして。夫は私が忙しくて家事がおろそかになっても「大丈夫だよ」と言ってくれています。それから私は、皆に気



を配り、サポートする假屋さんが区長をされているから、公民館長を引き受けました。基本的にうちの区は、全ての行事の運営に全役員、そしてその家族が参加します。本当にいろんな行事に皆さん出てきてくれます。10年来の友人なんかは「遠賀川区に引っ越して来た」と言っているんです。

吉岡 学童の仕事が始めたとき、私の子どもは4歳と2歳でした。うちは親と同居で協力体制ができていたし、自分の仕事を家族が認めてくれていたからこそだと思っています。それがなかったら今ごろ埋もれているんじゃないかな。初めは私も「女性だから遠慮する」というような気持ちがありました。段々きちんと自分の意見も言えるようになって、ならなきゃいけないんだと視点が変わっていったのは、さまざまな研修



◆吉岡 美保さん
遠賀町ひと・人応援団「どし」会長
遠賀南学童支援員

や講座に参加できたことや、仕事をしている流れの一つなのかなと思っています。

今橋 うちが子どもが3歳と1歳で、夫婦共働きです。今年度は地区で隣組長をすることになり、隣組費の集金も2人でしたし、妻が仕事の間は自分がしています。2人とも仕事をしているし、自宅で美容室をしている妻は、いきなり仕事が入るので、2人で協力して隣組長の仕事をするしかないんです。

——企業の視点から見た男女共同参画はどのようなものでしょうか。

今橋 商工会でも男女共同参画推進企業登録制度(7ページ参照)の話をしてみました。しかし、遠賀町は小企業が多いというのがあって、なかなか登録に結

やっぱり男女で協力し合って困っている方の支援ができるといいなと思います



◆白川 雅美さん

遠賀川区公民館長

びつきにくいという現状がありました。うちも社員は6人。自分も企業登録をするうえで考えさせられました。子どもがまだ小さい社員もいるし、幼稚園や学童の役員をしている社員もいます。そうした社員を町内企業としてバックアップしなければと思っています。ですが、正直苦しい部分があります。やはり小さい企業だと負担が大きくなりますよ。誰かが抜けるとそこを埋める必要がある。ただ、うちは会社の方針でやるだけやろうとしています。働きやすいように、有給休暇を一時間単位で取れるようにして、ある程度融通が利くようにもしています。ワーク・ライフ・バランスがかなえられると社員のやる気もアップすると思うんです。70年間町内で会社を続けてこられたのは、働いてくれる社員のおかげですから。

——最後に、まだ日本の社会では、家庭と仕事の両立は「女性の課題と捉えられる傾向があります。この点はどう感じられますか。

今橋 うちの男性社員でいうと、今日は夕飯を作らないといけないとなれば、定時で帰宅しています。うちは「男性も女性も」を目指しています。企業側からすると、男性でも女性でも若い人を雇うとなると、どうしても出産、子育てなど：考えてしまいますが、特に今まで、女性が仕事と家庭の両立という面で頑張ってきたからこそ、それを形にしたくなっていく思いがあります。

吉岡 今橋さんのお話しを伺っていて思ったんですが、職場に多世代がいると支え合えると思うんです。多世代どの年代の男女も大事で、支え合うって

ワーク・ライフ・バランスがかなえられると社員のやる気もアップすると思うんです



◆今橋 和基さん

有限会社今橋書店代表取締役
(男女共同参画推進登録企業)
男女共同参画審議会委員

いうところになる。ワーク・ライフ・バランスも基本にあり、その家庭を支えるためには社員がどう協力し合うかというところがある。イクボス(7ページ参照)の教育も組み込まれていると思うんです。子育てが安心してできる多世代がいる職場っていうのもあっていいのかな。

白川 学童に行くと、最近はお父さんのお迎えが多くなったように思えます。こういうところからも以前よりは男性が家事・育児に関わっていることが見て取れますよね。ですが、やはり男性がより家事・育児に関わりやすくするために、職場や社会の男女共同参画への理解がもっとも必要だと感じています。

